昭和４０年４月５日第三種郵便物認可
（旧「公衆衛生」）

２０１４年７月１日発行
第５７６号（通算）
発行：奇数月１日
会員購読料：１月１０円(年間６０円)
一般購読は別途送料

環境づくり・健康づくりのコミュニティ情報紙

環境と健康

発行者
一般財団法人 ～みんなの生命（いのち）をまもりたい～
広島県環境保健協会
近光　章
広島市中区広瀬北町9番1号
郵便番号　730−8631
電話　082−293−1511番
振替口座01380−2−27511
URL　http://www.kanhokyo.or.jp/

地域活動支援基金活用事業

助成事業に10団体が申請

今年度も地域で活発な活動を展開

当協会が、地区衛生組織の実践活動支援のために積み立てている地域活動支援基金は、現在、2つの事業で活用している。実践活動を経済的に支援する「環境と健康のコミュニティ活動助成事業」、学社融合の取り組み促進をねらいとした「環境啓発ポスター・標語コンクール事業」である。

◆環境と健康のコミュニティ活動助成事業◆

公衆衛生推進協議会が展開している環境と健康をテーマにしたコミュニティ活動に対し「導入型」「発展型」「広域型」の部門で助成している。「導入型」は新規に取り組む活動であり、「発展型」は課題改善につながる取り組みや工夫を盛り込んだ活動とし、「広域型」は現在の活動を市町全体に拡大・充実させる活動と定義している。

平成26年度の申請件数は、導入型1件、発展型9件の計10件である、申請団体をみると、世羅町黒川地区公衛協と神石高原町公衛協が今年度初めて申請。また、廿日市市佐伯公衛協、北広島町公衛協などは昨年度実施した活動の課題改善・工夫を盛り込んだ。福山市で活発な活動を展開している泉学区公衛協は、学社融合型の事業を平成22年度から継続して取り組んでおり、今年度は〝継続は力なり〟と題して、これまでの成果のさらなる発展を図る。同じく福山市で活動を展開している道上学区公衛協は、昨年度に引き続き環境家計簿データを収集し、県東部の季節変動データとして取りまとめ、PRしていくとしている。

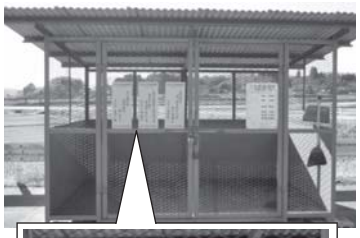
福山市道上学区で展開される個別省エネ診断事業の学習会（上）、尾道市で展開される「健診へ行こうよ！」事業の会場づくり（下）

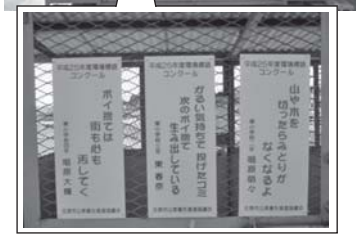
これら10件について、6月10日に開催した第2回地域活動支援基金運用委員会で審査が行われ、一部の団体は「改善した点、工夫した点を具体的に示すことが必要」などの付帯条件がついた。審査で、付帯条件が付いた事業は、活動に関する是正を行い追加計画書の提出を求め、再提出された申請書は事務局で要件の充足等を確認し採択・助成の手続きを行う。

◆環境啓発ポスター・標語コンクール事業◆

小・中学生から「私たちがすむ地球を守ろう」をテーマに、ポスターおよび標語の作品を募集するもので、今年度で7年目を迎える。今年度は22公衛協が参加し、安芸太田町公衛協が新規に参加する。集まってくる作品は、まず各公衛協で第1次審査を行い、次いで当協会の選考委員会で第2次審査を行った後、部門別に入賞作品を決定する。最優秀賞の受賞者は、11月26日の第55回広島県公衆衛生大会に招待し、表彰する。また、入選作品は会場に掲示するほか、当協会ホームページや情報紙等でも公開する。

今年度も、この事業を広く地域の方に広報する「事後フォロー活動」を助成する。





庄原市では、事後フォロー活動助成を活用し、入選作品をパネル加工し、各地域のごみステーションに設置して、環境意識を高めている

今年度、事後フォロー活動を実施する予定の公衛協は18団体で、地元で開催する祭りやイベントでの作品展示や表彰式の開催、優秀作品をクリアファイルに印刷して配布するなど、さまざまな活用と広報活動が予定されている。

この事業は、毎年盛大に行われており、作品も多様化し、レベルも上がっている。今年度も、より多くの作品が集まるよう呼びかけ、地域の盛り上がりと、事業のさらなる発展をめざしていく。

（地域活動支援センター）

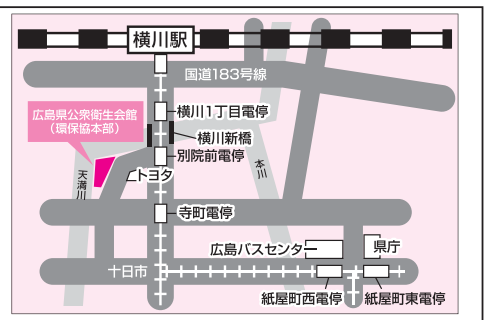
平成26年度環境と健康のコミュニティ活動助成事業申請一覧

部門	団体名	事業名
導入型	尾道市公衛協	「ちょっと遠くへ！お出かけウォーキング」マップづくり
発展型	大崎上島町公衛協	紙芝居作成（アイドリングストップ物語）
	廿日市市佐伯公衛協	佐伯リサイクルまつり
	北広島町公衛協	北広島町笑顔で取り組む脱温暖化のまちづくり事業
	東広島市公衛協	アイガモ農法による米づくり事業
	世羅町西大田地区公衛協	きんさいや西大田地区へ
	世羅町黒川地区公衛協	地域環境クリーン作成
	福山市泉学区公衛協	『学社融合』小さな行動、大きな“力”に !! 継続は力なり
	福山市道上学区公衛協	環境家計簿蓄積データー活用事業
	神石高原町公衛協	環境を守る事業

きんせんか
琴線歌

里海とSATOUMIのひろがり

里海は、「なつかしさ」さえ感じさせる言葉であるが、実は比較的新しい。里海が沿岸域の環境保全や管理の場に登場してまだ15年程度である。しかし、この間に、人が海と密接に関わりながら豊かな海づくりを目指す里海の考え方は着実なひろがりをみせ、さまざまな行政施策にも取り入れられている▼里海づくりが各地で盛んになった理由はいろいろであるが、直接的には、国の21世紀環境立国戦略（2007）に「豊穣の里海の創生」が盛り込まれ、これを受けて環境省が里海創生支援事業を進めたことなどが大きい。里海はまた、国内における「水質管理から生態系管理へ」の方向転換や「規制行政中心から地域主導型合意形成へ」の変化にも対応し、また里山と里海を一体的に捉える考え方は「海域の単独管理から沿岸域の総合的管理へ」の変化にもよく合っている▼里海は、近年SATOUMIと記されて国際的にも強い関心がもたれている。里海が国際的に評価される理由は何か？欧米では自然の保護・保全と利用・開発を空間的に分ける考え方が主流であったのに対し、里海では保全と利用を同一空間内でも調和させようとする点がある。海洋保護区の在り方などでも、里海のコンセプトが国際的に重要課題となってきたのである。さらに重要な点は、里海が、沿岸域管理に関する国際的な新たな流れである沿岸域の総合的管理、生態系管理や地域主導型管理のいずれとも親和性が強いことである▼最近、里海は一般社会の中でも市民権を得つつあり、全国紙の社説で「里海創生」が「海を身近にするチャンスに」として取り上げられ、あるいはテレビのNHKスペシャルでは「里海・SATOUMI瀬戸内海」が全国放映された。里海とSATOUMIのさらなる広がりによる豊かな海の実現を期待したい。

（広島大学名誉教授・瀬戸内海研究会議顧問　松田　治）

一般財団法人 ～みんなの生命（いのち）をまもりたい～
広島県環境保健協会
〒730-8631 広島市中区広瀬北町９番１号（広島県公衆衛生会館）
TEL:082(293)1511 ［大代表］
FAX:082(293)1520
かんほきょう 検索